

# 樹医からのアドバイス (Vol.01)

～ヒイラギモクセイを害虫被害から守るために～

出雲市樹医センター

樹医 西尾 光弘

近年、生垣として育てられているヒイラギモクセイの害虫被害が多く発生しています。防除の相談件数も多くなっており、今回はその防除方法をご紹介します。

## 「原因は何か？」

被害の原因は、ヘリグロテントウノミハムシというテントウムシに似た小さくノミのように跳ぶ害虫です。この虫は毎年5月上旬に葉の裏を食害し、6月から7月に症状として葉がマダラに白くまたは薄茶色に変色します。7月には新成虫が再び発生することが多く、また、食害します。

## 「どうしたらよいか？」

本来ならば、寒肥を与え土壌を膨軟にし、健全な樹勢を保っておけば、樹木は対病性、対虫性を保つことから被害の発生は少ないですが、毎年発生するような場合は、5月の連休初めにスミチオン乳剤1000倍液を散布することが有効です。さらに展着剤を混入すると効果は高まります。

ヘリグロテントウノミハムシはヒイラギモクセイの木の下で越冬します。翌春には再び活動を始めますから、薬剤を使いたくない方はその生垣の株元の枯葉や雑草を取り除き、清潔に保ちましょう。



(幼虫)



(成虫)



ヒイラギモクセイの被害葉